

更生施設 淀橋荘 保護施設通所事業 (定員：通所33人・訪問2人) [平成28年度事業報告]

1 事業総括

定員35人に対する月初充足率は85.4% (平均29.9人) で、昨年度実績89.7% (平均31.4人) からさらに減少した。更生施設退所者のうち「居宅移管」による退所が減少していることも影響している。新規開始者数は回復しているが、新規開始17人のうち5人が任意、失踪等により短期で目的外終了しており、安定した利用につながらなかった。

淀橋荘では、更生施設退所者に限らず宿所提供施設退所者も通所事業の対象として継続支援をしている。平成28年度実績は自活終了1人、新規開始1人、利用延長1人。今後は福祉事務所に對し、地域の被保護者を対象とした支援が可能である旨説明し、利用拡大を図る必要がある。

淀橋荘では、所内作業を単なる就業の場ではなく、生活の安定維持のための通所事業の重要なプログラムとして位置付けているが、一部受託作業について、通所事業終了時に利用者直接契約に切り替えることができた。年間の稼働日数はプログラムを増やしたことで増加し、総収入はほぼ維持できており、延べ作業人員も増加した。

地域貢献の一環として実施しているOB支援事業は、新規利用4人、終了7人と昨年度に比べ変動が大きかった。

	定員		28年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						27年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						
	通所	訪問	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	33人		31	32	33	31	30	29	30	25	23	23	24	25	28.0
訪問		2人	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1.4

2 主要目標に対する成果

(1) 所内作業プログラム、内部就労、外部就労等、多様な就労機会の提供

従来の所内作業プログラムに加え、淀橋荘の外構清掃、宿所提供施設等の居室清掃を導入し、より多様な就労機会を用意した。また、作業参加者が日々の作業結果や感想を記載する作業ノートを新規に用意し、施設との意見交換や作業の達成感をより獲得しやすくする工夫をした。

(2) 行事における利用者の参加意欲の向上や結果に対する達成感の向上

絵画教室では作品の館内展示を行い、参加者の意欲の向上や結果に関する達成感の獲得を図った。また、歌声喫茶ではアニメソングなど合唱の選曲の見直しを行い、より多くの人が気軽に参加できるようにした。

(3) スポーツ行事の導入による利用者の活動意欲の向上

健康増進及び利用者間の一体感の向上を目的としたフットサルや懇談会前のストレッチを実施し、年齢や健康面の理由によりこもりがちになりやすい利用者に対し、無理のない範囲で運動ができるようにした。

3 運営管理

- ・ 行事は更生との合同実施で充実化を図り、スポーツを導入したことで65回と開催数は増加した。延べ参加人数は214人と前年度から若干減。これは通所利用者自体の減少が影響している。
- ・ 地域福祉へ貢献するよう、居宅生活者の金銭管理や宿提女性利用者への継続的な就労支援等、ニーズに応じて地域枠を活用した。
- ・ 女性利用者については、宿所提供施設の行事参加を軸とし、就労支援や食事サービスの利用等を組み合わせ、通所担当者として採用され、自活終了とすることができた。また、安否確認に携帯電話やメールを用いるなど柔軟な方法を用いて支援している。
- ・ 継続的な安否確認が、利用者にとっての安心感の根拠になっており、体調不良時の緊急対応の結果、福祉事務所等との関係機関と連携、状況に応じた支援体制の構築が可能となった。
- ・ 所内作業は年203日の稼働日数で、参加人員は延べ2500人となっている。1日平均12.3人の参加となっており、継続的に参加している場合は、月5,000円程度の工賃収入が確保できている。
- ・ 作業スペースについては、平成28年度より利用者の意見に基づいて環境改善を図り、椅子の全面入替を行った。平成29年度以降も、机の入替、給湯器の導入等を計画的に実施する。